

3 人として教職員として、自己を磨くための修養

Q 17

地域の教材や先人に学ぶには？

ポイント

地域で生活している児童生徒たちが、日頃何を見て何に触れて何を感じて生活しているかを見直すことは、児童生徒の願いを生かした新たな学びにつながります。また、地域で大切にしているものや願いを理解し、そこに学校の願いを重ねることにより、学校と地域が一つになって子どもを育てていけるようになるのではないかでしょうか。

- (1) 地域に生き、地域を見つめる児童生徒の意識に寄り添う。
- (2) 研修に向けて地域の方々と思いや願いを共有する。
- (3) 地域に目を向け、地域に出向き、地域研修のヒントを見付ける。

(1) 地域に生き、地域を見つめる児童生徒の意識に寄り添う

- ① 地域を散策し、児童生徒が日頃見たり感じたりしている「ひと」「もの」「こと」を見直しましょう。
- ② 児童生徒の思いや願いに寄り添えるよう、必要に応じて一層深く体験したり話を聞いたり等の研修会を企画しましょう。

(2) 研修に向けて地域の方々と思いや願いを共有する

- ① 研修会の事前に地域の方々と打ち合わせをして、専門家としての思いと学校としての思いや児童生徒に対する思いや願いを伝え合い、研修のねらいの共通理解を図りましょう。
- ② 研修を受けるだけでなく、研修を通し児童生徒への思いを語り合うなどしましょう。

(3) 地域研修のヒントを見付ける

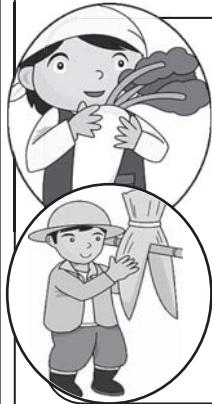
- ① 学校評議員会、PTA役員会などを通じて、郷土史家や企業家、種々の専門家など地域で活躍する方々の情報を得ましょう。
- ② 地域に出ると、たくさんの方々と出会う可能性が生まれます。積極的に言葉をかけて、地域の方々との繋がりや交流の輪を広げましょう。

さあ、地域に学ぶ研修に出かけよう！



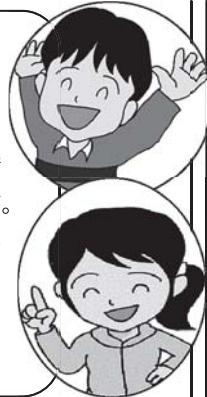
◇地域に出よう

子どもたちは、生まれた時から地域の「ひと」「もの」「こと」に支えられ生きてきています。そこで育まれてきた地域を見つめる目の中に、学びを生む可能性が詰まっています。



- 地域の方と語り合おう
散歩をしている人や農作業をしている人等、地域に出ると子どもたちの先輩がたくさんいます。大いに語らいましょう。地域の行事に参加してみてもいいですね。

- 地域で生活する子どもを見直してみよう
子どもたちは、学校では見せない姿を見せてくれます。地域に対してどのような関心をもっているのか見直しましょう。



○地域を見つめよう

子どもたちが関心をもっているものを見直しましょう。新たな学びにつながります。

○講師の方と語り合おう

- ・子どもと学びを作るための教材研究をするとともに、自らの修養のための研修として地域講師の方から専門的なお話を聞きましょう。
- ・学校の願いを伝えるとともに、地域の願いを聞きましょう。地域と一体となって子どもを育てる大きなチャンスです。

J 小学校の実践をのぞいてみよう

- 歴史資料館に出かける
 - ・資料館にかかる史跡などをしながら、徒歩で向かう。
 - ・資料館とかかわりの深い方をお招きし、資料館でお話を伺う。
 - ・学校や講師の願いを伝え合う。
- 講師の方から伺った、K 地域に残る戦争にかかる爪跡を教材化する
 - ・戦争を体験した講師の方の話。
 - ・講師の方と資料館に残る戦争資料や学校近くに残る防空壕跡、半地下工場跡地の見学。

◇研修を生かそう

研修を振り返り、今後の学習や生活に生かします。

- 地域研修を契機に地域とのつながりを強くしよう
地域の方々とのつながりを大切にしましょう。
- 研修を通して学んだことや今後の取組を語ろう
研修したことを教育課程の編成に生かしましょう。

学校と地域の方々と思いや願いを共有していくことが、学校教育の大きなエネルギーとなります

Q 18

読み合わせなど、教職員としての人間性を高める修養は？

ポイント

私たちは、これまでの経験の中で私たちなりの人間性を育んできています。その人間性を高めるには、今までのものの見方や考え方を揺るがすような「ひと」「もの」「こと」との出会いが必要になります。実際に人に出会ったり、その場に出かけたり、本を読んだりする等、自ら揺さぶられる可能性を求めて動き出しましょう。

- (1) 私たちの価値観を揺るがす「ひと」「もの」「こと」と出合う。
- (2) 自分を問い直し、生き方を見つめる。

II
—
3

(1) 私たちの価値観を揺るがす「ひと」「もの」「こと」と出合う

私たちはこれまでの経験の中で、自分なりのものの見方や考え方を育んできています。しかし、「それでいいんだ」と思い込んでしまったら、人としてそれ以上に成長する可能性は低くなってしまいます。人間性を高めるために、これまでのものの見方や考え方を揺さぶる「ひと」「もの」「こと」との出会いを求めて動き出しましょう。

- ① 生き方に示唆を与えてくれる方、日頃の生活では得られないような経験をされてきた方を見つけ出し、お会いして話を聴くなど、その方の人間性に触れる機会をもちましょう。
- ② 「ひと」とは目の前の子どもたち自身でもあります。おごり高ぶることなく一人の人間として子どもを見つめることで、人間性が高まる可能性が生まれます。
- ③ 平和のありがたさを与えてくれる場、自然や生命に対する畏敬の念を感じさせてくれる場等に足を運び、そこにあるものを見つめたり、そこで起きていることを感じたりしましょう。
- ④ 哲学書や先達の教えが書かれた書等、人間性の高まりにつながる書を求めましょう。

(2) 自分を問い合わせ、生き方を見つめる

- ① 「ひと」「もの」「こと」との出会いにより、私たちの価値観が揺れることができたら人間性が高まるチャンスです。その人の生き方の意味やそこで起きていることの意味を考え、私たちはどうあつたらよいのか、自分自身の生き方を問い合わせましょう。
- ② 「ひと」「もの」「こと」との出会いを基に、同僚と生き方について考えを交わし合うことで、新たな揺れが起きたり、生き方を見つめ直したりする可能性が生まれます。

人間性の高まりを求めて

◇自分を見つめ直す願いを抱く

○自分の実践やこれまでの歩みなどを基に、自分を見つめ直そうとする願いをもとう

- ・「子どもを深く見つめる目をもちたい」
- ・「自分を律する心をもちたい」



◇「ひと」「もの」「こと」との出会い

自らの価値観が揺れることは、成長へのチャンスです！



○人に出会おう

- ・生き方に示唆を与えてくれる方との出会い。
- ・戦争体験者等、日頃の生活では得られないような経験をされた方との出会い。



地域の寺院に出向き、僧侶からの法話を聴いたり寺院の文化財や歴史について学んだりしたし校



○書に出合おう

- ・職員会議の場などを活用した職員読み合わせ。たとえ5分でも積み重ねが大切。修養は一生の宝になる。
- ・「正法眼蔵」「国家」等の哲学書との出会い。
- ・先達者の教えとの出会い。



毎回職員会の冒頭15分間に毛澤章平先生の隨筆集から1編を選択し、読み合わせ、感想を伝え合うM校



○「もの」や「こと」に出合おう

- ・戦争の傷跡が残っている場やそこで起こったこととの出会い。
- ・大自然や歴史的建造物等、人の営みを超える、畏敬の念を与える場との出会い。



長期休業中などに参加者を募り、世界遺産等の史跡を巡ったりミニ登山などで自然と触れ合ったり研修を重ねるN校

人間性に完成はありません「揺さぶられ」そして「求め続けていく」ことで、高まり続けます

Q 19

教職員としての誇りと自覚を再認識する研修は？

ポイント

教職とは何なのだろうとか、自分はどうしてこの職業を目指したのだろうとか、これからの教職員人生をどうしていこうとか、広い視野で自分を見つめ直すことも大事です。

- (1) 日常とは異なる場所に身を置き、今の自分を見つめ直してみる。
- (2) 自ら研修の企画運営をし、一日体験研修を実施する。
- (3) 自分の中に沸き起こる事実を記録し、文章に書き表してみる。

(1) 日常とは異なる場所に身を置き、今の自分を見つめ直してみる

学校を出て異業種体験等の様々な経験をし、これからの生き方を考えるきっかけとします。

- ① 趣旨に基づき、教職員一人一人が求める研修を位置付けます。
- ② 例えば、初任地に行ってみる、生まれ育った場所の散策、農業体験、影響を受けた先生に会いに行く、写経、読書、ボランティア、自然散策、美術館巡りなどが様々なことが考えられます。

(2) 自ら研修の企画運営をし、一日体験研修をする

月日、場所、内容、ねらいを1行程度にまとめ、研修の企画とします。

- ① 夏期休業中に実施することで、様々な研修が可能となります。
- ② 計画書を学年会等で短時間でもよいので扱い、各個人の思いを共有できるようにします。
- ③ 写真などの撮影も予定しておくとよいでしょう。

(3) その時の自分の中に沸き起こる事実を記録し、文章に書き表してみる

体験した時、かつての思いや今まで生きてきた自分の姿が思い出されると思います。しかし、記録しておかないとその貴重な思いが失われてしまします。ぜひ、文章等に残しておきたいものです。

- ① 実施後、感想等をA4版1枚程度にまとめることで、研修を振り返ります。
- ② 校内で1つの冊子にして、回覧したり、職員文集のようにして互いに読み合ったりして、それぞれの教職員の研修成果を共有します。
- ③ 個人情報に配慮するため、個人名は伏せて、コラムとして日報などに連載する方法もあります。

個人研修～実際の計画と報告～

母校の大学を訪れ、教師を夢見た時の自分を思い起こしたA先生

月／日	場 所	内 容	ねらい・願い
7／30	○ 大学	母 校 訪 問	体育教師を夢見た大学時代の学舎を訪ねて、当時の気持ちを思い出す。

母校の大学を久しぶりに訪れました。大学の許可を得て、まず行ったのが、当毎日練習していたサッカー場でした。そこはサーキットトレーニング場になっていました。四半世紀前、この地で仲間と毎日切磋琢磨し、体育教師を夢見ていたことを思



い出しました。(中略)

次に、現サッカー場に行きグランドを見つめながら無心になりました。夏休みの合宿のため選手は一人もいません。本当に大変だった合宿。

あの頃は大変なことも当たり前のようにやっていたことを思い出しました。

初任地に行き、自分の原点を見つめ直したB先生

月／日	場 所	内 容	ねらい・願い
8／10	P 中学	初任地 めぐり	教師 15 年目の今年、自分の原点に戻りながら、今の自分を見つめ直したい。

初任地に行ってみて、素直に懐かしかった。でも、道路の拡張工事が進んでいたり、私の住んでいた住宅も取り壊されていました、15年という時の長さを感じた。(中略)

でも、15年前と同じ、校友会歌が聞こえてきた時、とても不思議な感じがして、一気にあの頃に戻ったような気がした。とにかく毎日が楽しかったなあと、純粋に楽しんでいた頃を思い出した。その純粋に楽しむことを経験できた時があって、今があるんだなあと感じた。ずっと、私を支えてくれる大事なものだと思った。

【参加した先生方の声】

- ・また、こういう研修を行いたい。日々の喧噪から離れ、自分を見つめ直すことは、とてもいいと感じた。
- ・働き始めて数年程度ではあるが、うまくいかないことも多かった。しかし、学生だった頃の気持ちを思い出せて、心機一転頑張ろうという気持ちになれた。



【 信州教育を支えた先人たち 】

これまでに直接お会いしたり本を通してお考えを垣間見たりした先生方、信州で教鞭を執られた先生方や信州教育に影響を与えた先生方等々、我々誰しもが心の支えとして出会ってきた先生方がいます。

先日、牛山榮世先生が執筆された「『学びのゆくえ 授業を拓く試みから』(岩波書店)」に改めて目を通す機会がありました。「相」の移ろいのお話、「成り立ち」が実感できる教育のお話などを読んで、担任した子どもたちの笑顔を浮かべ、「ああすればよかった」「もっとこうすればよかった」という後悔の念が沸き起こってきました。そして決まって思い浮かぶD先生の一言。

初任の地で小学校低学年を担任した私が、2校目で高学年を担任したことです。5年生になってしばらくして、A子と他の女子児童との間ですれ違いが起きるようになりました。ある日私は、職員室で隣の席におられるD先生に相談をしました。「A子と女子児童との間で問題が起きていて、A子をなんとかしてやりたいと思っているんですけど上手くいかなくて…」と話しました。D先生はいつもにこにこされていて、困ったことがあれば何でも相談に乗ってくださいました。その先生が、このときばかりは目にぐっと力を入れて私に一言話しました。「それはおこがましい…」。私は驚きました。いつものように優しく具体的に話をしてくれると思っていたが「おこがましい」と一言。私は意味が分からずに戸惑っていました。「子どもは、一人一人誰もが、自分らしくよりよく生きようと願って生活している。我々は、そのわずか一部だけでも支えられたらいい。子どもはそういう存在だ。それを何とかしてやろうなんて、おこがましい…」。私は何かで頭を殴られたかのような衝撃を感じました。

その後、様々な先生方のお話を聞く中で、新たな衝撃を覚える自分がいるとともに、D先生の一言が益々大きく重く感じるようになった自分がいます。

先人の先生方には、我々では経験し得ない経験を重ねてきたことによる教育観があります。そして我々にも一人一人が歩んできた経験に基づく教育観があります。先人の先生方と全く同じになれませんが、先人の生き方に触ることは、これまでの自分の教育観に揺れを起こしてくれたり意味付けをしてくれたりします。そして、我々の教育観を問い合わせることになると思います。

【教師の感化力を高める】

2校目の学校でのことです。水曜日の放課後になると、校長を中心に有志が集まって「哲学同好会」が開かれていました。お聞きすると、『歎異抄』の読み合わせをしているとのことでした。その後、次のような信州教育の伝統を紹介した文章に出会いました。

「長野県の小・中学校では、戦前から長く古典の読み合わせをしていました。今でも地域によっては、月に一回ぐらい職員会議の後に、道元の『典座教訓』、親鸞の弟子が書いた『歎異抄』、西田幾多郎の『善の研究』などの古典のテキストを決めて読み、互いに考えを述べあって理解を深めるといった時間を設けています。これにより、物の見方、考え方、人間としての見識が深まっていきます。すると、子どもたちの前に立ったとき、いろいろな教科の細かい具体的指導を超えて、『感化』、つまり人格が人格に触れることになり、子どもたちに大きなよい影響を及ぼすことになります。」

(資料) 「hito*yume vol.16」(2013年) ぶんけい 梶田叡一先生の教育ほっとにゅーす より

今になって、当時の校長の意図するところが分かり、自分自身の教師観を問い合わせきっかけになりました。教師の道というのは、子どもを指導しながらも、実は自分の人間力を磨く道だということを教えられました。今、教師として子どもの前に立ちながら、自分の心の中にどこか慢心はないだろうか、と自問自答しています。教師として、自らが人間としての完成に向かって、これからも研究と修養に励みたいと思っています。

